

Interview #02

*2026年2月インタビュー

2026年2月所属：理学研究科 理学専攻 物理科学領域
(名古屋大学融合フロンティアフェロー・日本学術振興会特別研究員)
2026年4月所属：住友化学株式会社



理学研究科 井上 大輔 さん

■ これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私は、超伝導という物理現象の理論研究をしていました。超伝導はまだ未解明な部分が多く残っている現象で、そのメカニズムを理論的に明らかにすることをテーマに取り組んでいました。いわゆる基礎研究なので、すぐに製品や技術に結びつくというよりは、「なぜそうなるのか」を突き詰めていく研究でした。そのため、現象そのものを深く理解していく面白さがあって、そこにやりがいを感じていました。

■ この春からはどういう仕事をする予定ですか？

この春からは住友化学に入社し、化合物半導体の材料を扱う部署で働く予定です。最初の数年は研究開発に携わることになると考えています。これまでの研究との関係でいうと、全く無関係ではありませんが、分野は大きく違って、感覚としては1~2割くらい共通する部分があるかなという印象です。半導体の基礎的な部分に対してはこれまでの知識を活かせると思いますが、新しく学び直すことも多いと思っています。少し不安もありますが、そこはこれから頑張っていきたいと思っています。

■ 就活の流れや、キャリアに関する考え方は？

就職活動を始めた当初は、自分の研究で得た知見を直接活かせる企業を探していましたが、実際にはほとんど見つからなくて、かなり幅広く業界を見ていきました。化学系だけでなく、機電系の企業なども含めて見ていたと思います。

その中でいろいろな企業の話の聞いたり、見学に行ったりする中で、だんだんと素材や材料系の研究開発に関わりたいという気持ちが強くなっていきました。企業の研究や仕事を見ていると、直接的に社会に役立っている実感があって、そういった点にやりがいがあると思いました。

最終的に入社を決め手になったのは、会社の雰囲気でした。面接だけでなく、研究所見学や若手社員の方との面談を通して、実際に働いている人の雰囲気を感じることができて、「ここで働きたいな」と思えたのが大きかったです。

■ キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

在学中に経験してよかったと感じているのは、企業と博士人材の交流会に参加したこと。そこで企業の方に自分の研究を紹介する機会があって、相手の前提知識に合わせて説明する力がついたと思います。他には、2週間のインターンにも参加しました。実際に企業がどういうふうに仕事を進めているのかを知ることができて、もし自分がその会社で働いたらどういうキャリアになるのか、かなり具体的にイメージできたのは大きかったです。最終的に入社する会社とは別の企業ではありましたが、同じメーカーという括りだったので、一社でも経験すると実際に働く雰囲気はつかめると感じたので、参加してよかったです。また、博士課程では韓国とスペインで学会発表をする機会がありました。こうした海外での経験はドクターでないとなかなかできないことだと思いますし、自分の視野が広がったという意味でも、とても貴重な経験だったと感じています。

■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

評価していただいた点としては、自身の研究能力だけでなく、書類作成の部分での文章力や、論理的に説明する力があつたのかなと思っています。研究で培った力として、内容を整理してわかりやすく伝えることは意識していました。また、面接後のフィードバックで印象に残っているのは、相手の前提知識を確認しながら説明している点を評価していただいたことです。専門的な内容でも、相手に合わせて伝え方を変えるという点は、大学院で培った経験を活かしたのかなと感じています。

■ 後輩たちにエールをお願いします。

博士課程に進学することに不安を感じる方も多いと思います。確かに大変な部分はあるものの、それ以上に得られる経験は多いと感じています。学会発表や論文執筆だけでなく、海外での研究発表や博士ならではの企業との交流、インターンなど、いろいろな経験ができて、自分の可能性を広げられる時間だったと思います。

私自身、博士に進学した時点ではアカデミアに進むか企業に進むかは半々くらいの気持ちでしたが、就職活動を通して企業で働くことに魅力を感じるようになりました。いろいろ見ていく中で、自分の中で納得できる選択ができたと思っています。

博士課程では「これをやらなければいけない」と考えすぎずに、「こういうこともできる」と広い視野を持って、自分がやりたいと思えることに挑戦してほしいです。振り返ると3年間はあっという間で、とても濃密で有意義な時間だったので、その時間をぜひ大事にしてほしいなと思います。